

ほっと事業報告②

5名の職員が兵庫県知事表彰を受けました

10月30日(金)、第64回兵庫県社会福祉大会で、永年にわたり福祉の発展に功労のあった個人や団体に對して兵庫県知事から表彰が行われました。事業団からは去年に続き今年も5名の職員が表彰を受けました。後日、伝達表彰を行い、懇談会でその労をねぎらいまいしました。

優良施設職員
(20年以上)

外間 知佐子(南野居宅 ケアマネジャー)
松場 あけみ(訪問介護 介護職員)
前原 厚子(訪問介護 介護職員)

介護職員・看護師
(15年以上)

古本 敬子(松風園 介護職員)
立石 みつ子(訪問看護 正看護師)

ホームヘルパー

鼻崎 好美(訪問介護 介護職員)



ほっと情報

年末年始営業カレンダー

事業所名	連絡先 電話番号	12月				1月					
		28 月	29 火	30 水	31 木	1 金	2 土	3 日	4 月	5 火	6 水
天神川・荻野地域包括支援センター	777-7002	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○
稲野・鴻池地域包括支援センター	780-1733	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○
伊丹・摂陽地域包括支援センター	775-2776	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○
笹原・鈴原地域包括支援センター	773-6223	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
伊丹市荒牧居宅介護支援事業所	777-7005	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○
伊丹市中央居宅介護支援事業所	775-3721	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○
伊丹市南野居宅介護支援事業所	773-6055	○	×	×	×	×	×	×	○	×	○
伊丹市桃寿園居宅介護支援事業所	780-1230	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○
伊丹市訪問介護事業所	780-2904	休まず営業									
小規模多機能居宅介護さくら	785-3365	休まず営業									
伊丹中央デイサービスセンター	775-2884	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○
伊丹荒牧デイサービスセンター	777-7006	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○
伊丹南野デイサービスセンター	781-5670	○	×	○	×	×	×	×	○	×	○
桃寿園デイサービスセンター	781-1771	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○
伊丹市訪問看護ステーション	784-0811	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○
伊丹市訪問看護療養通所介護事業所	784-1295	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○
伊丹市訪問入浴介護事業所	773-8588	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○
ケアハイツいたみ 通所リハビリテーション	773-2286	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○
ケアハイツいたみ	773-2286	休まず営業									
桃寿園ショートステイ	781-2900	休まず営業									
桃寿園・松風園	781-2900	休まず営業									
伊丹東有岡ワークハウス	783-9885	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○
サポートテラス昆陽東	773-4115	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○
食事宅配サービス	773-2288	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○
事務局(総務課)	784-9987	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○

～事業団だより～

ほっとメール

社会福祉法人伊丹市社会福祉事業団
〒664-0014 伊丹市広畑3-1
いたみいききプラザ3階
電話 072-784-9987
ホームページアドレス
<http://jigyoudan-itami-hyogo.jp/>

特集	東日本大震災被災地の高齢者施設等から学ぶ 現地勉強会参加レポート	P2
ほっと事業報告①	地域交流事業続々開催!	P3
ほっと事業報告②	5名の職員が兵庫県知事表彰を受けました	P4
ほっと情報	年末年始営業カレンダー	P4



ほっとな1枚

【はあ～っ、よいしょ!】

老人ホーム桃寿園・松風園の師走の風物詩「もちつき大会」の様子です。12月4日、ホームの中庭には近隣からお招きした保育園児、幼稚園児のかわいく元気な声が響きました。ビートの効いたBGMに合わせて、利用者様もマイクを使ってかけ声で参加されました。

特 集

来るべき大規模災害に備えるために——東日本大震災被災地の高齢者施設等から学ぶ

養護老人ホーム松風園・特別養護老人ホーム桃寿園 園長 池内 玲子

大規模災害時にあっても揺らぐことのない地域に根ざした高齢者福祉施設として、施設の防災対応力を高めるだけでなく、地域住民に安心・安全の拠点としての機能を提供できる施設づくりの必要性を学びました。 研修受講報告より抜粋して掲載いたします。

平成27年10月15日～17日、自主研修会「夢創造の会」が主催する現地勉強会に参加してまいりました。東日本大震災を経験された高齢施設の当時の施設長より対応・課題についてお話を伺うことで、その教訓を活かし、近い将来発生が予測される南海トラフ地震をはじめとした想定外の事態にどのように備えていくかを学ぶ目的として研修に臨みました。

■訪問先■

①特別養護老人ホーム「うらやす」被災跡地



今もそのままにしている旧特別養護老人ホーム「うらやす」。あの時の記憶を忘れないために。

被災後4年。手つかずの被災施設を残している。敷地内を流れている小川が津波で氾濫し、目の前の対岸に3階建てのグループホームがあったにも関わらず津波到達までの1時間14分に間に移動することができなかった。

②宮城県保健福祉部長寿社会福祉課整備支援担当者より県内被害状況の説明。

「廃止となった特別養護老人ホームが3施設。病院機能の停止が打撃であり、福祉避難所の未整備が混乱を招いた。他県への施設協力要請とガソリン不足による送迎・移送の困難。定員超過した施設の受入れ期間の問題。岩手県と和歌山県は提携により支援物資供給を要望できたが、宮城県は近隣に頼むだけだった」

③特別養護老人ホーム「赤井江マリンホーム」

海岸から250mに位置しながら144名全員が無事に避難できた。仙台空港という絶好の避難場所に避難した職員の機転が幸いした。

④東松島市地域包括支援センター

福祉避難所として機能と役割を果たすため、保健（医療）と行政、福祉のトリアージを行い、そのパイプ役を担った。

⑤宮城県老人福祉施設協議会

震災後、専門職職員派遣システムを構築し、災害派遣介護チームの設置を行った。現在210名の登録がある。今後起こりうる大規模災害に備え、関西との連携を取っていきたい。

⑥特別養護老人ホーム「やもと赤井の里」

避難所ではなかったが、地域住民を受入れ、毎日2食温かい味噌汁とおにぎりを提供。一部プロパンを使用していたことで粥やお湯を沸かすことができ、重宝した。避難してきた住民がトイレ掃除やごみの片付けなど一緒に働いたことでお互いが助け合えた。



「やもと赤井の里」の備蓄は米と味噌。戸外には折りたたみ式ポータブルトイレと毛布・ストーブ。津波が来ても車いすを一気に引き上げるスロープや緩やかな階段。

⑦石巻市立大川小学校跡地

盆地の窪地に立つと、まさかこんなところまで津波が来たとは思えなかった。小学生だけでなく地域の多くの方が亡くなっている。



⑧南三陸地域包括支援センター

「沿岸から300メートル～4.5kmで、逃げ遅れる人が多かった。南三陸では津波で全てを失った人が多く、心のケアが重要」と保健師。

⑨特別養護老人ホーム「春園苑」

当初避難所に行ったが、認知症の入所者に対し、一般避難者から理解を得られず、苑に戻った。その後、苑が地域住民の避難場所になった。普段から地産地消を励行しており、有事にも食材を優先的に調達でき、3食温かい食事を提供することができた。職員同士で子どもを預かる工夫をし、継続勤務を可能にした。



断崖25mに立地する春園苑 津波は21mまで迫ってきた

⑩介護老人保健施設「リバーサイド春園」

多くの利用者が流された。今後に大きな課題を抱えた。今後の対策としておむつや食材、ガソリン等を調達するため、食品給油企業等との災害協定を結んだ。

⑪特別養護老人ホーム「恵心寮」

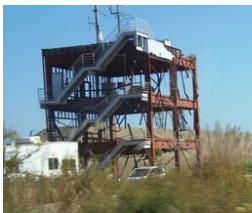
「チリ地震を教訓に避難訓練を行っており、2階へ避難し、全員無事であったが、避難先の環境が劣悪だった。長期入所を中止していたため、再建しても運営できるか不安」と話を施設長から伺った。

⑫特別養護老人ホーム「さんりくの園」

震災発生時はマニュアルどおり中庭に全員が集まってまって避難するようしたが、逆に非難の遅れと情報の分断を招いたため、多くの犠牲者を出した。

■現地を目の当たりにして■

東北大震災被災地の高齢者入所施設の方々のご苦労は想像を絶するものであり、それは現地の生の声を聞いたからこそ感じる事ができたと実感しています。どの施設長の言葉からも危機管理不足についての無念を感じることができました。管理者が不在であったゆえにマニュアルどおりの対応しかできなかったり、警察の指示を待っていたために被害が大きくなった施設があった一方、状況から素速く判断し、すぐに避難行動を起こして全員が助かった施設もありました。平



最期まで避難を呼びかけた防災庁舎と多くのご利用者が犠牲になったリバーサイド春園の手掘り地蔵、ディケアのご利用さんが作っている。

素からの危機管理が問われた究極の被災状況、そして4年を経た今、何もなくなった広大な平野のなか、復興工事で毎週のように変わるアスファルト道路を縫ってデイサービスの送迎を4年間続けておられる状況を知りました。「私たちのことを忘れないでほしい」と思う被災された方々の思いは、自分達だけでなく亡くなった人達への思いからくるものであると理解できました。遠い東北の地に災害時には助け合うことが出来る施設同士のつながりが持てました。

特別養護老人ホーム・養護老人ホームは、災害下においても、要援護高齢者が一番安心して安全に暮らせる居住スペースであるべきことを自覚し、ここで救助を待つことができる機能をもたせることが減災であり、地域の皆様が避難に来られても受け入れられるだけの備えを持つ、機能性の高い施設づくりに職員とともに心新たに取り組んでまいります。

特別養護老人ホーム桃寿園・養護老人ホーム松風園では、大規模災害発生時、地域の要援護者の一時避難受け入れを想定し、利用者と要援護者250名分の食糧及び衛生用品4日分を備蓄しています。また、携帯電話や懐中電灯等に対応可能な太陽光発電による小量電力供給を3日間確保できるよう整備を行いました。今後も引き続き施設の防災機能を高め、大規模災害時にも地域の方々にとって安心・安全の機能を提供できる施設づくりを順次進めてまいります。

ほっと事業報告①

——地域交流事業続々開催！——「第9回事業団デイ☆フェスタ」、老人ホーム「もちつき」、ケアハイツいたみ「第6回あっけら寒ニバル」

11月14日（土）、伊丹中央デイサービスセンターにて「第9回事業団デイ☆フェスタ」を開催いたしました。「三世代交流文化祭」をテーマに催した「キッズ体験ワークショップ」は地域のお子様から大人までが交流する楽しい場となりました。

12月4日（金）には老人ホーム桃寿園・松風園で恒例の「もちつき」を行いました。毎年ご協力頂いている野球チーム「伊丹マズルズ」様を始め、地域のボランティア様のご協力により、つきたてのもちを利用者様に召し上がって頂きました。園庭でのもちつきには近隣の保育園、幼稚園、児童福祉施設の園児と保護者が入れ替わりで参加し、一人ずつ杵をもって記念撮影をしました。

12月13日（日）には介護老人保健施設ケアハイツいたみにて地域交流事業「あっけら寒ニバル」を開催いたしました。ステージではヒーリングリズム、合唱、ギター弾き語り、リハビリ担当職員による「いきいき元気体操」が披露され、また、手作り体験やフードコート、桜台地区コミュニティ協議会様のとれたて大根の即売会や「ふるまい大根」があり、大にぎわいとなりました。

地域交流事業開催にあたりご尽力いただきました地域住民の方々、ボランティア団体、障がい者団体、関係機関の皆様、ありがとうございました。また、お忙しい中わざわざ足を運んで頂きました多くのご来賓の方々、ご家族・地域の方々に厚くお礼を申し上げます。

